

平成15年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

（2）高齢者の自立支援及び元気高齢者づくりのための調査研究等事業

痴呆性高齢者の在宅生活を支える地域ケアサービスの方策に関する研究
在宅支援を目的とした地域ケアサービスシステムの研究

社会福祉法人 浴風会

高齢者痴呆介護研究・研修東京センター（報告書 A4 版 2 頁）

事業目的

介護保険は、住み慣れた地域で可能な限り自立した生活を送る事を支援することが制度の趣旨である。この考えは痴呆性高齢者においても変わらない。しかし痴呆性高齢者を地域で支えるシステムはまた不十分である。そこで本事業は以下の研究により、痴呆性高齢者を支える地域ケアについて研究を行う事を目的とした。

事業概要

「在宅支援を目的とした地域ケアサービスシステムの研究委員会」を設置し、3回の委員会を開催した。その他作業部会を実施した。

1. 「物忘れケア教室」を企画し、軽度痴呆性高齢者と介護家族の支援サービスを実施した。
2. 「ケアフレンド講座」を企画し、痴呆性高齢者の家族介護者を支援するためのボランティア養成のための講座を実施した。
3. 在宅介護支援センターに対して、地域在住の痴呆性高齢者とその家族への支援状況のアンケート調査を実施した。

アンケート調査は、在宅介護支援センターの地域における家族支援の現状を把握する目的で実施した。郵送法によるアンケート調査とした。調査客対数は全国から816の在宅介護支援センターとした。調査対象者は在宅介護支援センターのスタッフであった。

4. 事業結果をまとめて報告書を作成した。

事業結果

1. 「物忘れケア教室」は、高齢者本人に集団回想法を、家族には心理教育プログラムを作成し実施した。高齢者本人と家族へのプログラムは平行して実施され、1セッション90分とし、5回で終了する方法とした。本研究は、プログラムの運営方法、展開方法の検討を中心とした。カリキュラム内容と時間設定は、参加者の状況を考慮すると、痴呆介護支援の初期介入として、妥当な介入プログラムであると考えられた。
2. 「ケアフレンド講座」は2回開催された。講座参加後にボランティア活動を行なうための登録を行なった者が38名（2年前からの全講座参加者81名中）あり、講座のねらいである支援ボランティアの育成に一定の成果を上げていることが示された。

3.在宅介護支援センターの調査結果は、817 箇所を対象とし、結果、504 箇所から返答があった(回収率 62%)。調査目的に対する在宅介護支援センターの意識の高さがうかがわれた。積極的介入が介護保険後も展開されており、その背景に相談協力員等・他機関の協力や、居宅介護支援業務を行いながらも活動している現場職員の現状が示された。在宅介護支援センターの役割として、積極的な地域への介入活動は必要不可欠であり、その役割の重要性が示された。

事業実施機関

社会福祉法人 浴風会 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1 電話：03(3334)2173